

縣陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoka Senior High School

136



- 02 令和元年度 PTA 本会役員あいさつ
- 04 PTA 総会～縣陵の PTA をすることによって縣陵を支える!～
1年「高校生活のイメージが具体的に見えてきました!」
- 05 2年「大学入試制度の変更点についてなど」
3年「受験生を応援する親のための勉強」
- 06 令和元年度 PTA 年間スケジュール
- 07 専門委員会より
- 08 学年づくり
- 10【特集1】探究科 活発に活動中
- 12【特集2】伝統校初の女性応援団
- 13 活躍する縣陵生
- 14 ようこそ縣陵へ!
- 16 縣陵祭 Snap・縣陵祭表彰・編集雑記



人間力を育てる教育とは？

PTA 会長 窪田 和英



今年度PTA会長を務めさせて頂きます窪田と申します。宜しくお願ひ致します。今年のゴールデンウィークは元号が「平成」から「令和」に変わり、多くの方が新しい時代の到来を感じられた事と思います。元号に関する報道の中で、「世」という漢字について解説したものがありません。「世」という漢字には父の後を継いで、その地位を子に譲るまでの約30年間という意味があるそうです。

時代の変化が激しい現代における30年は、世界を激変させてしまう可能性があり、平成の世では東西冷戦の終了、経済大国としての中国の台頭、個人の生活ではインターネットの普及によりライフスタイルが大きく変化した事が挙げられると思います。

次の「世」を見据え、どのような教育が必要かを考えた時、これまでの知識偏重の教育から人間力を育てる教育が必要と言われております。今の生徒さんが活躍する頃の社会は、世界で仕事をするのが当たり前になっており、その際に必要となるものはコミュニケーション力、多様性を受け入れ調和を図り物事を推進していく能力であり、これらは人間力と置き換えても良いかもしれません。では、人間力はどのように身につけたら良いのでしょうか？

高校時代は勉強だけでなく部活動を通じて人間力は磨かれると思いますが、スポーツで基礎が大事と言われるように、学習においては基礎学力の習得は必須であると考えます。基礎学力

の習得は同じ体験をした時に物事を多方面から考えられるきっかけを与え、人を大きく成長させる原動力になり、結果として人間力向上に繋がると考えます。とかく基礎と言われるものは退屈であり習得には時間が掛かりますが、大きく飛躍する為には必要な事と思います。PTAは今後も同窓会、縣陵の学びを支援する会と連携して縣陵生の学習環境の整備を行って参りますので、保護者の皆様もぜひPTA活動に積極的にご参加頂けますよう宜しくお願い致します。

『勇敢なペンギン』



生徒会長 田中 柚衣

今年度の生徒会では「First Penguin」というスローガンを掲げ活動を行っています。

「First Penguin」には未知の大海へ飛び込む一羽のペンギンの姿から「リスクを恐れず新しいことに挑戦する」という意味が込められています。

このスローガンを元に今年は生徒総会の改革、縣陵祭における新企画など新しいことに挑戦しました。

私たちの代の生徒会では広い視野を持ち多角的に考え、主体的かつ積極的に活動すること、そして失敗を恐れずに様々なことに挑戦することを大切にしています。今後の生徒会活動においても様々なことにトライし、より全校を巻き込む方法を模索していけたらと思います。

また6月末には第72回縣陵祭が行われました。「煌夏爛漫」というスローガンのもと生徒会を中心に全校で準備を進めてきました。新企画も盛り込まれ、例年になく盛り上がった素晴らしい縣陵祭になりました。全校生徒の皆さん、先生方、保護者及び地域の方々、ここまで関わった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました！

「子供との関わりを考える」



PTA 副会長 矢口 大輔

PTA副会長の矢口と申します。

この頃、子供との関わり方について考えることがあります。

積極的に関わった方がいいのか、「放任」した方がいいのか。あまり色々言い過ぎてはいけないと思いますし、何か言うことが押し付けになってはいないか…。

父親として高校生の娘とどう接するべきなのでしょう。

「ヘリコプターペアレント」という言葉があるそうです。子供の周りを「ホバリング」して、何かあったらすぐ降りてきて色々やってしまう…、干渉し続ける親のことだそうです。

昔と比べて今の親世代は、自分も含めて、子供に「依存」して、干渉し過ぎていられるのかもしれませんが。それが結果的に、知らないうちに子供が自分で判断する能力や機会を削いでしまっているのではないかと思います、時に反省しています。

子供達には、自分で考え、判断ができるよう（時には間違っても）成長して欲しいと願います。

PTAとしても、自分の将来について考える材料を与える、押し付けではない活動を心掛けたいと思います。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

縣陵は学力(認知能力)に加えて、非認知能力を培う高校です

学校長 杉村 修一



保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に対しましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。5月のPTA総会において、これまでご尽力いただいた竹内公人前会長の後任として窪田和英新会長を中心とする新体制が整い、本年度のPTA活動が開始しました。昨年度は本校が中信地区の事務局校であるため、竹内前会長には中信地区高P連の会長と県高P連の副会長の大役の上、北信越高P連の研究発表をさせていただき好評を博しました。心より感謝申し上げます。今年度は窪田新会長さんには県高P連の監事をお勤めいただきます。

さて、創立96年目にあたる今年度、本校は探究科(「自然探究科」「国際探究科」)が開科し2年目を迎え、県下最高倍率の中、合格した探究科2期生81名と普通科242名の323名が2,3年生に温かく見守られながら入学しました。「質実剛健」「大道を闊歩せよ」「弱音を吐くな」の校是のもと、縣陵生たちはそれぞれの目標に向かって明るく澆刺と

した高校生活を送っております。学習、クラブ活動、生徒会活動いずれにも手を抜くことなく精一杯取り組む姿は見えていて清々しさを感じます。

この姿こそが学力(認知能力)と非認知能力を育むこととなります。とりわけ非認知能力の重要性は現在の教育界で声高に謳われています。誠実さ、忍耐強さ、社交性、好奇心の強さ等の非認知能力は「人から学び、獲得するもの」であると言われています。

その中でも重要な非認知能力は①自制心(我慢する力)②やり抜く力(非常に遠い先にあるゴールに向けて興味を失わず、努力し続けることができる気質)と言われ、将来の年収、学歴や就業形態などの労働市場における成果に大きく影響するというエビデンス(科学的根拠)があるそうです。

新たな高等学校学習指導要領が告示されました。その中で「主体的で、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や「生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を

相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実」が必要とされています。

本校は、このような新たなる学びへの対応のため、RESAS(地域経済分析システム)、電子黒板、iPad等々を利用して探究的学びをすすめて、2年後の大学入試制度改革に向けての学習をここ数年間に渡り積み重ねています。そして縣陵は教師にとっても魅力的な教育活動を展開している高校でもあるのです。

今後も「探究科を中心とするグローバルな視点を取り入れた最先端の学び」を推進すべく努力して参ります。創立96年目の縣陵にご期待ください。

また、理科棟や家庭科棟、芸術教室等のエアコン設置につきましても、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

縣陵への思いとともに

PTA 副会長 北和田 清文



この度PTA副会長を拜命しました北和田と申します。どうぞ宜しくお願い致します。この春、長男が縣陵に入学し、縁あってPTAの役員をお声かけ頂きました。私が縣陵を卒業して30余年が過ぎ、学校を取り巻く環境も様変わりしている中、どこまでお役に立てるか分かりませんが、これまでの感謝の思いとともに精一杯取り組んで参りたいと思います。

4月より活動が始まり、諸先輩方から教えて頂きながら、会議やその後のコミュニケーション(?)に取り組んでおります。まだまだ現状を把握するのがやっとのところですが、様々な場面でPTAや縣陵同窓会など、本当に沢山の皆様方の思いと協力で成り立っている事を改めて認識しています。時は令和となり、2020年度の大学入試制度変更も伴って、社会状況変化に対応した学びが求められています。そのような環境にあって子供達は大変ですが、勉強や部活に取り組む姿やITを駆使した生徒会運営等見ておると、とても頼もしく「さすが縣陵生だな」と思うのです。彼等が縣陵で充実した日々を送り、将来の希望に向かって進んでいけるよう、全力で支援して行きたいと思っております。どうぞご支援ご協力を宜しくお願い致します。

縣陵生の成長のために

教頭 浅井 秀俊



窪田会長をはじめとする保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。4月に赴任してきたばかりですが、生徒が授業、部活動、生徒会活動に一生懸命取り組んでいる姿に毎日感動しています。縣陵生のためにできることを精一杯取り組んでいきたいと思っております。

これからの学校教育では、グローバル化した変化の激しい社会を、自ら考え、自ら判断し、自らの責任で主体的に生き抜くため「生きる力」を育てていくことが一層重視されています。そのためには、「自ら律する心」「他人と協調し思いやる心」等の、豊かな心や社会性の育成が欠かせません。

子どもを健全に育成する上で、家庭と学校の役割は異なりますが、それぞれの役割を果たすとともに、連携を一層密にしていく必要があります。

その中で基本的な生活習慣の形成は、人がよりよく生きていく上で不可欠な要件です。

①身体や衣服の清潔、交通等の安全を図る生活態度 ②物や金銭の取扱い、自他の物の区別、時間・期限の厳守、整理整頓、規則を守る等の生活態度 ③挨拶、言葉づかい、身だしなみ等。

これを培うために家庭の役割は重要です。起床・就寝時間、食事の時間、そして家庭学習時間を家庭内のルールとして決めてください。家庭の役割を分担させて実践したり、親子で地域活動に参加したりすることで心を豊かにします。ゲームやインターネット、携帯電話などの使い方を決めたり、情報モラルを具体的な場面で教えてあげてください。学校や家庭という、生徒たちを取り巻く身近な大人たちの手で、子どもたちの力を育てて行きましょう。

縣陵のPTAをすることによって 縣陵を支える!

令和元年度PTA総会が去る5月18日(土)に開催されました。当日は、薫風がすがすがしい快晴の天気で、大勢の保護者の方にお集まりいただき盛大な会となりました。

会は窪田副会長の開会の辞に始まり、竹内会長、杉村校長が挨拶を行いました。竹内会長は「政府の教育再生実行会議が高校の普通科の改善を柱とする提言を行った。再来年度には大学入試制度が改革される。学校を取り巻く教育環境はめまぐるしく変化している。本校においては、昨年度から探究科が設置された。今まで以上に家庭と学校の密接なコミュニケーションが必要になってくる。会員相互の親睦と教養を深めることが大切。広く皆様のご参画をお願いしたい。」と述べました。杉村校長からは「日頃から生徒には縣陵生であることに安穩とせず、縣陵生であるために縣陵生をする、ことをしよると言っている。縣陵のPTAをする、ことによって縣陵を支えていただきたい。部活動は年間70日の休日を確保している。生徒の出欠席の把握のため

S.H.R.の位置や部活動の開始時刻をそろえるため教育課程の改善を検討していきたい」との言葉がありました。文武両道をモットーに取り組む縣陵生が、自分の目的に向かって進路実現できるよう学校と家庭の協力体制の大切さを改めて考えさせられました。

引き続き平成30年度の会務報告が承認されました。拍手により窪田和英会長以下全役員が承認されました。窪田新会長は「生徒の学習環境を支援していきたいので保護者の皆様もPTA活動に積極的にご参画願いたい」と呼び掛けました。その後、専門正・副委員長の紹介・承認と各クラス評議員の紹介がありました。今年度の事業計画案、予算案ともに承認されました。

最後に長年にわたり本校PTA活動



に貢献された竹内会長に感謝状と記念品が贈呈されました。窪田会長から竹内前会長の顧問の推薦について発声がありました。承されました。

総会終了後、各会場に分かれ学年PTAが行われ、1,2年生は学級PTAも開かれました。夕刻よりPTA懇親会及び歓送迎会がアルピコプラザホテル(レストラン オールデイダイニング NAGOMIZA)で行われ、竹内前会長のご慰労と会員の親睦を行いました。



1 学年 PTA

高校生活のイメージが具体的に見えてきました!

初めての学年PTAでは、これから子どもと共に歩む高校生活の概要を、担当の先生方からお聴きした貴重な時間となりました。

■ワクワクする体験が盛りだくさん

1年間の主な行事内容では、縁の下の力持ちで活躍する「縣陵祭」、限界に挑戦する「強歩大会」、クラスで団結「クラスマッチ」など、子ども達が躍動する場面をイメージできました。

■自分の考えを発信・表現する能力が問われる学習

定期考査や進学にむけた内容では、共通テストの導入

にともなう入試対策の変化に、これから求められる力を確実に養っていく取り組みが必要だと痛感しました。特に自分の取り組んだ実績を積極的に発信したり、与えられた情報を効率的に理解し、自分の考えを表現する力は縣陵が取り組む「探求学習」が基盤になり、子ども達の将来につながることを確認しました。



2 学年 PTA

大学入試制度の変更についてなど

2学年PTAでは、来年度大きく変わる大学入試についての情報や、「生活指導」のお話をお聞きしました。

■進路指導

来年度の大学入試制度の変更に伴い、特に大きく変わる英語科目についてお聞きしました。

まず大きな変更点として、民間の英語資格・検定の併用が始まります。そして大学毎に使用される検定試験の種類や得点への反映方法も違うとのことでした。中には出願要件に特定の検定試験の成績が義務付けられている学校もあるそうです。また大学側へ提出されるのは、2020年の4月～12月に受験した検定試験の成績のみと限定されていることも今回初めて知り、勉強不足を

痛感いたしました。

保護者としても、まだ2年生と思っている手遅れになりそうな危機感を感じました。例年にもまして学校との連携を取り、早めに行動をしていかなくてはいけないようです。

その他、大学入学に必要な費用について、学費面と生活面に分けてお聞きしました。

■生活指導

始業時間が早まり、安全な自転車通学の為にも余裕をみて登校出来るよう、各ご家庭でも声掛けをお願いしますとのお話がありました。



3 学年 PTA

受験生を応援する親のための勉強

進路講演会として、信学会駿台提携信州予備学校・進路アドバイザーの外山郁薫先生より受験に向けての講演をして頂きました。限られた時間の中で大変内容の濃いお話を頂き、改めて大学受験の厳しさを痛感しました。現行入試制度が最後の年となり、センター試験→大学入学共通テストになるという事、大学入学者の7～8割が推薦・AO入試合格者だという事等々…これらは約20～30年前つまり我々保護者の時代と大きく変化した事だそうです。親と子(受験生)との向き合い方につ

いてもお話がありました。子供が親から言われて嫌な言葉の1位が「俺の時代は…」「昔は〇〇だった…」という言葉。その話を聞いた時「言ってるなあ」と思ってしまった。大学選びへの保護者の関わり方として、『子供に答えを与える』ではなく『子供に問いを与える』だそうで『最低限、自分が何をやりたいか』が大学を決める1つとも。子供と共に我々親も受験に向けて頑張りましょう!



令和元年度 PTA 年間スケジュール



4月	4日 入学式
	8日 第1回理事会・評議員会
	18日 PTA総会・学年PTA・進路講演会
5月	21日 松本県ヶ丘高等学校連絡協議会 (同窓会・学校・PTA)
	30日 芸術鑑賞
	31日 中信地区高等学校PTA連合会総会
6月	22・23日 縣陵祭(一般公開)
7月	4日 長野県高等学校PTA連合会総会(長野市)
	4・5日 北信越高等学校PTA連合会研究大会 (長野市)
	26日 PTA会報発行136号 ～11月上旬 地区交流会
8月	21～23日 全国高等学校PTA連合会研究大会 (京都市)
9月	7日 3学年PTA入試説明会
	12日 合唱コンクール
	中信高等学校PTA指導者研修会 (長野県総合教育センター)
10月	3日 人権学習 (福島県立新地高等学校 教諭 渡部 義弘)
	11日 競歩大会
	中旬『教育条件整備』に関する署名運動
11月	9日 PTA研修旅行(予定 早稲田大学)
2月	20日 第2回理事会・評議員会
	下旬 PTA会報 137号
3月	3日 卒業式

10月3日 人権学習

「東日本大震災と高校生」

福島県立新地高等学校 教諭 渡部 義弘
 是枝裕和監督の指導を受けて、福島県立相馬高校放送局の生徒たちが、制作したドラマとドキュメンタリーを見ます。その後、顧問の渡部義弘先生からお話を伺います。東電原発事故を経験した福島県立相馬高校放送局の生徒たちが、沈黙を破りその思いをぶつけた演劇「今、伝えたいこと」などの表現活動に光を当てます。3.11後の福島で高校生が何を考えるのかを感じ、彼らが自ら発信することの意味を考えていきます。

令和◇初◇の強歩大会を盛り上げよう

総務委員長 秋田 佳代子

総務委員会の主な活動は強歩大会のサポートです。

男子32.9km、女子28.0kmで、中盤には牛伏寺・崖の湯方面を経由する激しいアップダウンもあり、歩くだけでも息切れしそうな過酷な行程です。まさに強靱な精神力が養われる鍛錬の道のりです。

10月11日(金)に行われる強歩大会は第62回目となります。強歩大会を成功させるために生徒の安全確保が必要となります。多くのボランティアの方々のご協力と応援をお願いします。



「縣陵」は縣陵生の輝き!!

広報委員長 有馬 なみ江

「縣陵」には、PTA会長はじめ私たち保護者の活動の様子、県ヶ丘高校を愛する先生方の熱い想いがあちらこちらに散りばめてあります。

紙面を一番多く占めているのはやっぱり、保護者の自慢、縣陵生のキラキラ輝く笑顔! 笑顔! です!!

「縣陵」には、縣陵祭、合唱コンクール、強歩大会などの学校行事や、部活動での頑張り、進路のことなど保護者の知りたい事、ためになることがいっぱいです。

広報担当の春日先生、広報委員の皆さんと心を込めて会報をお届けしたいと思います。1年間、どうぞよろしくをお願いします。



進路選択にあたり有意義な時間を過ごしましょう

研修交流委員長 青沼 享子

研修交流委員会では地区交流会や研修旅行を企画し、皆様の進路選択のお手伝いをしています。

小・中学校と違い学校での様子など、保護者と先生がお会いし話す機会が少ないなか、地区交流会や研修旅行に参加し情報交換してはいかがでしょうか。

今年度の研修旅行は、11月9日(土)早稲田大学への訪問等を計画し、検討しております。

在校生と保護者が一緒に見学でき、本校卒業生との交流会も計画しています。

卒業生に聞きたいことを直接聞いて進路選択の参考にしてみてください。

1年間どうぞよろしくお願ひいたします。



同窓会より奨学金のお知らせ

大学進学決定者を対象とした、無利子の育英(貸与)制度があります。年度毎の定員は3名で、貸与額は年間50万円(4年間で200万円)、返済期間は貸与期間の2倍以内(例:4年生大学は8年間)となっています。募集は、来年2月以降で採用決定は3月下旬になります。詳しくは、同窓会事務局(32-0666)までお問い合わせください。



Switch your feelings!

3学年主任 細田 明彦

三年生になって、四ヶ月近くが過ぎました。縣陵祭も終わり、多くの部もその活動に一区切りついたところです。この二年と四ヶ月、縣陵の生活で培ったものはたくさんあるでしょう。

友情、思いやり、協調性、道徳性、コミュニケーション能力…。また、体力・集中力、精神年齢も向上したことと思います。これからは、自分自身の進路の実現に向けて、日々努力を積み重ねていって欲しいと思っています。

入学以来、生徒諸君には、以下のような話をしてきました。「『我等』で学ぶことの意味を考えて欲しい」「縣陵での生活(勉強・生徒会・部活動あるいは自分の趣味)にしっかり取り組んで欲しい」「授業を大切にしたい」。多くの生徒諸君は、これらが実現できているかと思いますが、なかには、もう少し何とかならないかなあ、と思わせる者がいるのも現実です。

今、生徒諸君に求めたいのは「気持ちの切り替え」です。「勉強モード」への切り替えを上手に行ってもらいたいものです。

これから迎える夏休みをどのように過ごすかで、秋以降の「受験モード」にシフトアップできるかが決まります。これまで以上に計画的な、規則正しい生活を望みます。

上に述べた「我等」での勉強ですが、我々は、三学年という大きな集団で、個々の進路実現を目指していきます。集団での勉強は、モチベーションが上がります。必ずコミュニケーションが伴い、他の人の知識を吸収でき、自分とは違う視点に立った意見を聞くことができます。また、未知の分野に詳しい人がいれば、新たな知識を得るいい刺激になります。

もちろん、勉強はひとりでもできます。しかし、ひとりでの勉強はだらだらしてしまったり、取り掛かりが遅れたり、目標を先延ばしにしてしまったりする可能性があります。また、自分のやり方が不安に思われ、能率が落ちることもあります。

全員が自分の望む進路に進めるよう、卒業までの残された日々、保護者の皆さまと協力して努力して参りたいと思っています。



肩書きがひとをつくる。そして… 3学年会長 鶴巻 雄介

3年生は入学して2年と数か月、これまで自分の意思とは関係なく、縣陵生としてみられているな、と感じることがありませんでしたか。はじめは気恥ずかしく思ったかもしれませんが、今

では縣陵生であることに誇りを持っている人が多いのではないのでしょうか。これまでの行動の積み重ねによる実績、自信のようなものがそう思わせていると私は考えます。今年は縣陵の3

年生として実績を重ねていくことでしょうか。1人1人の行動が縣陵の3年生を作り上げていくことになります。3年生自身が縣陵そのものです。そして、次の世代、次の世代へとその実績は引き継がれていきます。最後の1年、諸先生方に見守られながら、保護者としては子供たちがしっかり巣立っていけるよう、そしてより良い時間の積み重ねができるよう1年間サポートしていきたいと思っています。

今年1年宜しくお願いいたします。



自分を見つめなおそう!

2学年主任 青木 隆明

2年に進級して3ヶ月が過ぎました。クラス替えや講座毎の授業が始まり、変化のあった学校生活にもだいぶ慣れた頃ではないでしょうか?多くのクラブでは3年生が引退し、今年度の

「縣陵祭」も盛況のうちに終了しました。これからは2年生が学校の中心になって活動していく番です。

「探究学習」を本格的に取り組み始めた学年です。昨年度から、4月の探究学習ガイダンスをスタートに、毎週木曜7時間目の総合学習の時間、さらに探究科は月曜7時間目の探究の授業をとおして、信州学や課題研究に取り組んできました。11月には東京方面に研修旅行に行き、学校ではできない英語学習や企業訪問などをしました。探究科は3月に、東南アジア(マレーシア・シンガポール)とオーストラリアにわかれて海外研

修旅行に行ってきました。このような活動を通して生徒たちは、課題を見つけ検証し、討論を行い、まとめ発表する活動に大変熱心に取り組み、着実に向上してきていると思います。普通科は12月の台湾研修旅行の実施に向けて準備を進めているところです。

生徒面談をしていると、将来の夢や目標がなんとなくでも定まっている人もいますが、多くはまだ定まっていないのが現状だと感じています。この時期に、自分は何をしたいのか、得意なものの興味関心があるのは何か、これらを見つけてほしいと思います。逆に、不得意なものを見つけるでもいいと思います。この夏は個人で大学オープンキャンパス等に参加する機会があります。「探究学習」や「研修旅行」で感じたこともあるでしょう。目の前にあることも大切ですが、少し先の将来のことも是非考えてほしいと思います。



将来に向けて

2学年会長 樋口 孝司

学習、部活動、生徒会活動などに縣陵の中心としての活躍が期待される2学年の活動が始まりました。PTAとして、親として出来る限りのサポートをしていきたいと思っています。今年

一年間よろしくをお願いします。

大学入学共通テストに関し実施大綱が文科省から発表されました。受験情報の確認を通して進路を具体的に考える年でもあることを実感しています。これまでに各講演会、国内外研修、普通科の信州学や探究科の課題研究等を通し、さらには今夏の

オープンキャンパスへの参加を通して子どもが主体的に進路を考える機会がもうけられています。各ご家庭でも進路について話し合っていきたいですね。

また、大学入学共通テストでは知識だけではなく思考力、判断力、表現力を重視して評価する方針であることはご存じだと思います。AI（人工知能）の発達によって「考える」ことの重要性が高まっているためですが、課題を見つけ、考えをまとめ、説明する、まさに探究学習で身に付けたものが求められています。毎日の積み重ねを大切に、自信を持って進めていきましょう。



高校生活スタート！

1学年主任 金井 賢一

入学から3ヶ月過ぎ各クラスにもそれぞれの個性というか「顔」ができ始めました。にぎやかなクラス、落ち着いたクラス、担任の個性をしっかり受け止め反映させているクラス、整理整頓能力に欠ける担任をしりめに整然と教室内、ロッカー上の整理ができているクラス…クラスを構成しているのは、言うまでもなく一人一人の生徒です。言うは易しですが、その中でのびやかに個性が発揮されるよう心がけていきたいと思っています。

学年をスタートさせるにあたり担任間で話し合いを持ちいくつかの目標を決めました。

- 1 準備を大切にしよう。準備は二通り。
「形の準備」と「心の準備」
- 2 家庭学習は2時間。希望の進路を叶えよう。

3 挨拶と掃除をきちんとしよう。

この他、スマホの授業直前までの使用禁止、金曜日は雑巾がけDAY(毎日やっているクラスもありますが)などのルールも決めました。

タブレットを全員が持ち、Wi-Fi環境も整備されそれらを生かした学習や授業が日常的に行われています。入試制度や試験内容の大幅な変化が予想される中で十分に対応できる学習環境は整ったと思います。十二月には学年の最大の行事である2泊3日の東京研修があります。現段階の計画ではTGG(東京都英語村)で「体験型英語プログラム」を体験します。翌日は一日かけて企業や国連機関などの訪問を行い、三日目は大学訪問を計画しています。この機会が、これからの人生の糧に少しでもなればと願っています。



令和(新しい時代)を生き抜くために

1学年会長 松田 久美

縣陵3大精神「質実剛健・大道を闊歩せよ・弱音を吐くな」を初めて聞いた時には硬い言葉だなと感じました。

しかし新しい令和という時代に入り今後の超高齢化社会、また2040年を境に人口が激減しAIが生活に入り込んでくる時代が来る、その時代をどう生き抜いていくのか?を考えた時に、やはり「強く生き抜いていくしかない」と感じた時に、この3大精神の力強さが重要ではないかと思いました。

これは高校生活の中の精神というよりはこれから社会に出

るために必要な精神だと感じます。学校生活でいえば小学校では「共同生活」、中学校では「苦しさ」、高校では「楽しさ」、また大学では「自由」を学び、そして社会に出ると、このすべてが絡み合って仕事というものが始まります。

高校生活を楽しみながら、自分の力を信じ心身共に健康で、大きな道を目指しそれに邁進し、弱音を吐きたくない時はみんなで支え合いそれを日々乗り越えよう。

高校3年間この3大精神を心に刻み、人として子供たちにはそれぞれ大きく成長して欲しいと願います。

探究科、活発に活動中

探究科が発足して2年目となりました。探究科では1年生、2年生が、ハイレベルな教科授業に加えて、探究学習を行っています。自らの興味・関心に基づくテーマを設定し、仮説を立てて課題の解決に迫っていく探究学習は、これからの社会で求められる課題解決能力を養うものです。これらの学習を行いながら、将来リーダーとして活躍できるグローバルな人材の育成を目指しています。



探究発表会
3月には1年間の探究学習の成果を発表しました

探究学習

探究科では、毎週月曜日の7限と木曜日の7限に探究学習を行っています。1年次前半に探究の型（方法）を学び、後半に身近な題材をもとに探究に挑戦。2年次には、1年次の経験を踏まえて、より深みのある探究を行っていく予定です。年度末の探究発表会では、1、2年生ともに自分の探究学習の成果を発表する中で、プレゼンテーション能力も身につけます。

探究ガイダンス

4月25日（木）、知的好奇心を刺激し、これからの探究学習の指針となることを願って、1年生全員を対象に探究ガイダンスを行いました。今年も「縣陵の学びを支援する会」にご協力いただき、自然科学、保健健康医療、テクノロジー、地域社会、産業経済など13の分野で活躍する同窓生や地域の方々を講師としてお招きし、各分野の最先端の内容をお話いただきました。生徒からは「興味のある分野について深い内容が聞けてとてもたのしかった」「探究の参考になった」「将来の目標が見つかった」など前向きな感想が多く寄せられました。



ガイダンスの一場面



探究科1年生（県陵際にて）

東南アジア研修

2019年3月13日(水)～21日(木)

57名が参加し、東南アジア研修を行いました。マレーシアの首都クアラルンプール、世界遺産の都市マラッカ、シンガポールが主な研修地です。研修の中心は、研修3日目の現地の高校生との交流でした。文化的な背景を異にするマレーシアの高校生とともに、国連が定める2030年までの開発目標であるSDGsをテーマに英語でディスカッションをおこない、高校生の視点から提案できることを考えました。この成果を深めるべく各地でインタビュー活動などを行いながら、マレー半島を南下してシンガポールへ移動。シンガポール・エプソンでグループごとに発表し、講評をいただきました。

このほか、日本とは異なる現地の匂いや空気を感じ、熱帯雨林やゴム園などの自然に触れ、カンポンビジットで現地の方のお宅を訪問し、イスラム教やヒンドゥー教といった馴染みのうすい宗教に接するなかで、グローバル社会で身につけるべき他者や異文化への寛容さを、肌感覚で学んだ研修となりました。帰国後、日常生活や学習へのモチベーションが高まったという生徒が多く、これからの成長が楽しみです。



学校交流

よりよい未来を作る知恵を出し合いました



ヤシの実ジュース

オーストラリア研修

2019年3月11日(月)～20日(水)

8泊10日の日程で、23名がオーストラリア東部のブリスベンで研修をおこないました。生徒は全日程1人1家庭でのホームステイです。ホストファミリーの送迎で現地の高校(Murrumba State Senior College)に通いながらの短期留学体験。学校では本校生徒1人につき現地生徒1人がバディにつき、授業や休み時間をともに過ごしました。英語漬けの毎日でしたが、現地の先生方も驚くほどの英語力でオーストラリアの生活に順応していました。1年間この日のために積み重ねてきた学習の成果です。また、14時半には帰宅し、家庭での生活を充実させるライフスタイルには考えさせられた生徒が多かったようです。

研修後半には1年間学んできたSDGsの視点から、グリフィス大学での生態系保全を考える実習やNadgee Beachのマングローブ林での実地研修により自然保護について理解を深めることができました。



Nadgee Beachでの環境保護研修



バディとともに

今後の予定 (2019年度)

- 7月 1年生 海外研修コース選択(マレーシア・シンガポールまたはカナダのどちらか)
- 8月 夏休みサイエンスツアー(スーパーカミオカンデ、東北スタディーツアー)
- 12月 1年生 東京方面研修
- 2年生 探究科課題探究発表会(信州大学にて)
- 2月 2年探究発表会(普通科・探究科全員)
- 3月 1年生海外研修(マレーシア・シンガポールまたはカナダのどちらか)

縣陵初の女性應援團！

應援団の出勤

- 4月 始業式、着任式、入学式、新入生応援練習
- 5月 県大会、北信越大会、インターハイ、全国総文祭壮行会
- 6月 縣陵祭
- 9月 合唱コンクール、終業式
- 10月 県大会、北信越大会壮行会
- 3月 卒業式、終業式、離任式

伝統校初の女性應援團

應援團顧問 石坂 珠緒

縣陵史上初の女性應援團ということで、たくさんの改革を行って参りました。最初に行ったことは、縣陵の代表である應援團として、挨拶や授業態度などの日常生活を、今までよりも徹底して行いました。さらに、4月の全体応援練習のために、朝早くから夜遅くまで、顧問との打ち合わせや練習を重ねました。

「1年生の頃は「応援練習が嫌だ」と弱音を吐いていた彼女たち。しかしいつか「縣陵の伝統を私が引き継ぎたい」と考えるようになり、立派で頼もしい“女性應援團”になりました。彼女たちの成長を素晴らしく思います。

これから更に、新しい時代の中で、様々な課題があるとは思いますが、さらによりよい應援團になることを願っています。どうか温かく見守って頂きますよう、お願い申し上げます。

縣陵応援団が大好きだ

第71代 応援団 団長 杉本 芽生

自分の意思でなった応援団ですが、3年間諦めずに続けるというのは正直なところ大変でした。ですが、辞めたいと思った事は一度もありません。自分でも不思議なほど応援団である自分自身、また応援団そのものを好きだと思えたからです。応援として共に活動してくれた皆を誇りに思っています。

私は「伝統を進化させて引き継ぐ」を目標に団長となりました。伝統を崩さず、現代に合った方法で自分達が味わった達成感を伝えるには、と悩んでいる中での春の応援練習。新1年生に自分達の思いを伝える、その一心で臨みました。応援練習後、晴れ晴れとした顔の1年生を見て、思いが伝わったと嬉しく思いました。

時代が目まぐるしく変化していく中、応援練習という前時代的なものをそのまま伝えていくのは難しいかもしれません。しかし、応援団としての誇りを持ち、今後も縣陵応援団を大切に守ってほしいと思います。

伝統と進化

第72代 応援団 団長 關 瑠那

私たち第72代応援団は、最後の強制的かつ男子のみという第70代応援団の先輩方と最初の自発的かつ女子のみという第71代応援団の先輩方の姿を見て入団し、指導を受けてきました。伝統を継承する立場として、また縣陵の代表として、応援団の一員であることの自覚や責任も教えていただきました。

長年受け継がれてきた伝統を守りつつも、今の時代に合うよう変えることは容易なことではありません。そんな中、第70代応援団の先輩方は顧問の先生と共に、望んだ者自らが入団することができる環境を整えてくださり、第71代応援団の先輩方は女子応援団として注目を集め、活動しやすい環境を整えてくださいました。次は私たち第72代応援団の番です。先輩方が作り上げてくださったこの環境を無駄にすることなく、今こそ応援団の活動を広く知ってもらいたい。ただ伝統を継承するだけでなく、応援団の存在意義について伝えていきたいです。



大きな変革の先陣を切って

第71代 応援団 副団長 加藤 杏

私達の代から応援練習は大きく変化しました。1年生の全体練習後に団員を立候補という形で募集し、さらに女子の団員も認められました。委員練習はもちろん全体練習よりも厳しく、仲間も減っていき、辛い日々でした。しかし、仲間と支えあい、教えあって乗り越えていった時間はほかの縣陵生には味わえない特別なものでした。

先輩方が引退し、新しい体制で長く引き継がれてきたバトンを受け取ったときはもちろん、責任を重く感じました。さらに、縣陵初の女性応援団として、様々な意見が飛び交う中でのスタートだったので、不安も大きかったです。しかし、私たちの活動を様々なメディアに取り上げてもらい、少しでも多くの方に伝統ある縣陵の応援団の活動を知ってもらえることが出来ました。3年間応援団としての活動を全う出来たことをとても誇りに感じます。

時代の流れに沿って引き継がれてきた応援団の活動が、形が変わっても伝統として残っていて欲しいと願っています。

活躍する縣陵生

北信越大会出場者

【卓球部】

- 女子団体…3E 大池 桜月紀さん、3E 澁谷 萌恵さん、3G 平林 しほりさん、2B 伴野 奈音さん、2C 山本 綾さん、2F 草深美奈さん、1F 山田莉子さん
- 女子ダブルス…3E 澁谷 萌恵さん、3G 平林 しほりさんペア
- 女子シングルス…3E 大池 桜月紀さん、1F 山田 莉子さん

【空手道部】

- 女子団体組手…3B 上條 花恵さん、3E田中 柚衣さん、3H 万木 彩花さん、2A 高柳 梓さん、2F 野澤 麗さん、2G 實吉 恵さん

【女子ソフトテニス部】

- 個人戦ダブルス…3C 平栗 華乃さん、2B 伊與部 希奈さんペア

【陸上競技部】

- 走り高跳び…3C 高田 幸之助さん(5位 1m95cm)
- 800m…3C 安永 友麻さん

第43回全国総文祭・インターハイ 出場予定団体及び選手

第43回全国総文祭出場者

- 【棋道部】佐賀県 佐賀ふれあい交流センター(7月30日～31日)
3B 石塚 奏多さん、3F 望月 佑成さん、2G 佐原 智輝さん

- 【新聞部】佐賀県 佐賀市(7月29日～8月1日)

- 2C 大谷 和輝さん、2D 大谷 英輝さん

インターハイ出場者

- 【山岳部】宮崎県 高千穂町 祖母山系(8月2日～8月6日)

- 男子…3G 今井 淳人さん、3A 熊谷 駿人さん、2C 武田 健作さん、2D 嶺山 晃輝さん

- 女子…3C 櫻井 宥実さん、3G 古田 優希さん、2C 大木 菜緒さん、1E 永田 佳奈子さん

- 【陸上競技部】沖縄県タピック県総ひやごんスタジアム(8月4日～8日)

- 走り高跳び…3C 高田 幸之助さん



県総体では日々の練習の成果が実り、県3位で北信越大会に出場することができました。北信越大会では1回戦敗退という結果でしたが、選手も応援してくれた部員も最後まで全力で声を出し、精一杯戦い抜くことができました。私たちがこれまで空手に打ち込んでこられたのは日々の活動を支えてくださった保護者の皆様、先生方、その他応援してくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。(3B 上條 花恵)



棋道部は去年果たすことのできなかった団体戦での全国大会出場を果たしました。県大会で優勝したときには感動したし、頑張ってきて本当に良かったと思いました。しかし、

それと同時に長野県代表としての責任を背負うことになりました。全国大会では仲間を信じ、楽しく戦ってきたいと思えます。(3B 石塚 奏多)



卓球部女子は団体戦で県大会3位となり、シングルス2名、ダブルス1組と合わせて北信越総体に出場しました。団体戦は、福井商業に0-3で敗れ、シングルスとダブルスも健闘しましたが、1回戦敗退となりました。悔しさも残る結果になりましたが、女子としてはしばらく達成できなかった北信越総体出場を果たすことができたこと、このメンバーで戦うことができたことは本当に嬉しいことでした。(3E 大池 桜月紀)



北信越大会では仲間の応援もあり、なんとかインターハイへ進むことができました。北信越大会では自分の力がうまく発揮出来ず、悔しい結果となってしまったのでインターハイでは自分らしい跳躍をして、昨年果たすことのできなかった8位以内という目標を達成出来るように自分の全ての力を出し切って後悔の無いように競技をしてきます。応援よろしくお願いします。(3年C組 高田 幸之介)



僕たちは宮崎県高千穂町で行われるインターハイに出場します。夏、真っ盛りの時期ですが、3年生は完全燃焼、2年生は来年につながる大会となるよう、好成績目指して頑張ります。応援よろしくお願ひします。(3G 今井 淳人)

女子は今回でインターハイ出場6連続です。県大会では優勝こそしましたが、納得のいく結果ではありませんでした。県大会と昨年のインターハイで味わったくやしさをバネに今回の大会では上位を目指して頑張りたいと思います。(3C 櫻井 宥実)



私たちは、個人戦で県ベスト16に入り北信越大会に出場しました。慣れない場所でやるということで緊張や不安もありましたが、沢山の応援の言葉を背に最後まで自分達のプレーをして、結果的には負けてしまいましたが、楽しむことができました。ここまで来れたのは一緒に練習してきた仲間や先生、コーチ、家族などの沢山の支えがあったおかげです。今まで関わって下さった皆さん本当にありがとうございました。全ての出会いに感謝です。(3年C組 平栗 華乃)



ようこそ



楽しく生きる

勉強、部活、生徒会、その他行事…すべてのことを全力で楽しんで、探究してください。そうすれば学生生活は、言うなれば「楽生」生活になります。地道な学習も「楽習」になります。3年間、楽しもう。(担任 塩原 潤)



つねに心に「探究」を

互いをリスペクトし、あたたかい関係のなかで、失敗をおそれず、自分のアタマで迷いながらも、勇気をもってやっかいな問題に挑みながら、どこまでもこの「せかい」を探究しつづけてゆこう。(担任 宮坂 正義)



縣陵での3年間

Choice 自分の進路選択のために
Change 新しい自分になる
Chance よい機会です。
Challenge 挑戦しよう。
(担任 小口 聡)

日々の成長の先にあるものは…

最初はどうかっちゃんだろーと思いました、ルーム長の立候補者がいない、SHRや授業開始前シーンとして物音ひとつ聞こえない。3カ月後の今、正副ルーム長中心にクラスが動き始め、クラスマッチや文化祭でも大活躍。(担任 金井 賢一)



縣陵へ！



Everyone Enjoy!

「人生一度きり!人生に無駄は無し!」
だからこそ皆で前向きに楽しもう!楽しむ人は楽しさを
引き寄せる!色々な事にチャレンジし、人と交わり、人
を想い、感謝をし「非認知能力」を高めていこう!
(担任 三木 舞子)



Always Smile & Always Positive !

いつでも笑顔で、前向きに。
縣陵で出会った仲間たちと、今しかでき
ないことに積極的にチャレンジしよう!!
(担任 湯川 紳)



なんとかするさ!!

生きていれば、誰にだって悩みもあれば苦
しみもある。悩んでいる自分、苦しんでい
る自分を楽しんでしまおう。何があるうと、
なんとかなる!笑顔でゆこうぜ!
(担任 吉越 慎二)



Heartland

その空の色は紺碧。
潔く、柔らかく、心地よく、風が吹き抜ける場所。
そんな居場所に。
(担任 平林 裕子)



～縣陵祭スナップ～



縣陵祭 表彰

- ポスターデザイン 長瀬 桜乃 (3D)
- パンフレットデザイン 大和田 真優 (3D)
- 全校制作(モザイクアート壁画)デザイン ... 中野 智世 (3G)
- ステージバックデザイン 赤羽 菜織 (3C)
- うちわデザイン 鈴木 七海 (3F)・大和田 真優 (3D)
- タオルデザイン 土屋 琴己 (2B)



編集雑記

- テレビドラマで見た校閲作業。少しあこがれもありましたが実際に行ってみると大変なものでした。もっと大切に広報に目を通したいと思いました。(2H 遠藤)
- 「スペース」「,」「。」「・・・」集中力全開でがんばりました。沢山の思いが詰まった136号になりました。(1D 勝家)
- PTA会報作りの仕事に携わらせていただくという貴重な体験。出来あがりを楽しみます。(1B 高見澤)
- 校閲作業に携わる事ができ貴重な経験となりました。(1E 高橋)

- 高校生に子どもがなってから、すっかり関わりが無くなるのも淋しい…とPTA委員になってみました。一足早く原稿を拜見できて嬉しいです。(1A 樋川)
- 役員活動は、保護者の”部活動”だと思って楽しんでいます。(2F 一本木)
- いつも「さらっ」と読んでいたPTA会報…(すみません…) こんな苦労の末に作り出されたなんて、びっくりです。一文字一文字にたくさんの方の思いがこめられていることを知りました。ありがとうございました! (2E 森村)
- ケーキを食べながら、みんなで校閲、楽しい時間をありがとうございました。(3F 望月)
- 慣れない校閲の作業、難しい文字と格闘しながら

- ながら久しぶりに頭を使いました! 出来上がりが楽しみです。(2E 西沢)
- 校閲ではじめて隅から隅まで目を通しました。これからはもう少し読もうと思います。(3A 高木)
- 高校にもなると広報紙として難しいことばを使うものだなあと校閲しながら思い、こんなことばもあるのかと学びにもなりました。PTA活動も楽しみながら関わられたらと思います。(3G 上條)
- 広報委員として参加させていただき勉強になりました。高校での子ども達の姿を少しでも見ることができた気がして嬉しいです。(3D 矢ヶ崎)
- 役員の方と会報にのせる記事を細部までチェックをした時間は、楽しかったです。(委員長 3B 有馬)



松本県ヶ丘高等学校PTA会報 縣陵 136号

発行日●2019年7月26日 発行●松本県ヶ丘高校PTA 編集●広報委員会 印刷●川越印刷株式会社
写真提供●有限会社金森写真館 <http://www.nagano-c.ed.jp/agata>

